



未来へ続く世界の実現のために、私たち生協はエシカル消費を「誰かの笑顔につながるお買い物」と表現し、積極的に取り組んでいます。エシカルとは、直訳すると「倫理的な」という意味です。

生協では地域や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買うことを「エシカルなお買い物」と表現し、積極的に応援しています。

(1) エシカル消費対象商品の普及促進

とやま生協は「エシカル消費」を

- ① 環境への配慮～地球環境を守る～
- ② 社会への配慮～公正な社会の仕組みづくり～
- ③ 人々への配慮～人々の「生きる」を支える～
- ④ 地域への配慮～豊かな地域を作り出す～

の4つの視点で進めています。

① 宅配事業

- 年間を通してエシカル消費対象商品の普及に取り組み、2024年度でのエシカル消費対象商品の供給高は19億1,348万円(前年比112%)、供給点数は382万4,420点(前年比109%)です。
- エシカル消費対象商品は、「コープファミリー」や「くらしのパートナー」などの商品カタログで共通のエシカルマークとして案内し、見つけやすくしています。



▲「コープファミリー」など主に食品に掲載しているエシカルマーク



▲「くらしのパートナー」など主に日用品に掲載しているエシカルマーク

② みなみ店

- 2025年2月に実施した「SDGsアンケート」期間に「エシカル消費コーナー」を設けて、来店者へのエシカル消費対象商品の普及に取り組みました。



▲みなみ店でのエシカル消費コーナー

(2) 組合員や地域の方への啓発活動

① イベントでの啓発

- 「アースデイとやま」、「とやま環境フェア」、「富山県消費者大会」、「みんなの消費生活展」などにブース出展し、エシカル消費の取り組みについて来場者への普及・啓発活動を行いました。



▲とやま環境フェアにブース出展

② SDGsアンケート

- 組合員の資源リサイクルやエシカル消費をはじめとするSDGsへの意識調査と、さらに多くの皆さんに知っていただくことを目的に実施し、1,866人から回答をいただきました。

《アンケート結果からわかったこと》

- 「エシカル消費」の理解度(「言葉も意味も知っている」と回答した方の割合)が36%(前年40%)と、前年より下がりました。
- 消費者庁の調査(令和6年10月実施)では、「エシカル消費」の理解度は全国で8%ですので、とやま生協組合員には「エシカル消費」について理解している方が多いことがうかがえました。
- エシカル消費への関心度については、「関心がある」・「ある程度関心がある」を合わせると、82%の方が「エシカル消費に関心がある」と回答されており、前年の71%より11ポイント向上しました。



▲「SDGsアンケート」案内チラシ

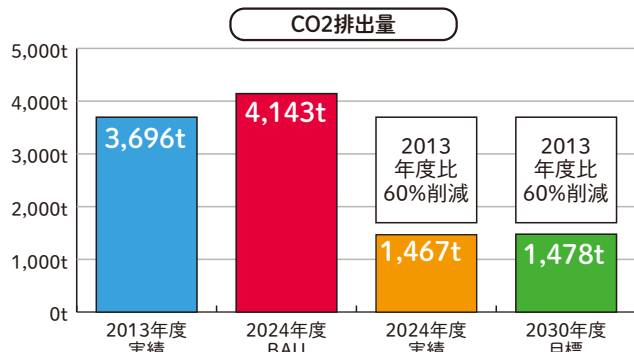


とやま生協では、2030ビジョンで「地球温暖化対策を進め、再生可能エネルギーの利用・普及・開発をすすめます」としており、環境への取り組みを重要な社会的責任の一つとして位置づけ、持続可能な循環型社会の実現をめざします。

(1) 温室効果ガス削減

① とやま生協「2030温室効果ガス削減計画」

- とやま生協では「2050年カーボンニュートラル」達成に向けて「2030温室効果ガス削減計画」を策定し、「2030年にCO2排出量を2013年度比で58%削減」することを目標に取り組みできました。
- 2024年度のCO2排出量は1,467tで、これは「2013年度比で60%削減」に相当します。
- とやま生協では、地球温暖化防止対策を巡る社会情勢が刻々と変化していることを踏まえ2025年度からは「2030年にCO2排出量を2013年度比で60%削減」を目標に取り組みます。



※2024年度のBAUとは、太陽光発電や再生可能エネルギー100%電力の採用などといった、CO2削減のための対策をしなかった場合の排出量(推定値)です。

② 「みんなで節電アクション」

- 暮らしの中での温室効果ガス削減について考える一つの機会として、無理のない範囲でご家庭の1ヵ月間の電気使用量削減に取り組み、155世帯507人が参加しました。
- 削減できた電気使用量は、10世帯分の1ヵ月の電気使用量(全国平均)にあたる3,475kWhで、杉の木119本が1年間に吸収できる量に相当する1,670kgのCO2が削減できました。



▲「みんなで節電アクション」募集チラシ

(2) 再生可能エネルギーの開発と導入量増加

① 太陽光発電の設置

- 小規模多機能型居宅介護事業所「輝かみいいの」に太陽光発電設備を設置し、10月から稼働しました。
- 太陽光発電設備を有する事業所は計6カ所となりました。

② 太陽光発電の発電量と自家消費

- 年間の発電量は102万kWhで、一般家庭244世帯の年間電気使用量(全国平均)に相当します。
- 自家消費量は72万kWhで、とやま生協の年間電力使用量の12%を占め、328tのCO2排出量削減に貢献しています。



「輝かみいいの」の太陽光発電設備▲

③ 再生可能エネルギーの導入量増加

- 福祉事業所で調達している低圧電力を、10月から再エネ由来の非化石証書を用いた「再エネ電力」に切り替えました。
- 2024年度末では、とやま生協の年間電力使用量の97%が《CO2排出量ゼロの「実質再エネ電気」》となりました。

太陽光発電	太陽光発電 自家消費量(kWh)	CO2削減量 (概算)
東部センター	61,369	28t
西部センター	137,287	62t
輝かみいいの	2,295	1.2t
要冷物流センター	517,052	233t
農産物流センター	9,619	4t
合計	727,622	328t

太陽光発電で発電した電力の2024年度の自家消費量▲

とやま生協では持続可能な循環型社会の実現をめざし、プラスチック製容器包材の削減や生協の事業から排出される容器包装等のリサイクルに取り組んでいます。

また、ご家庭からの食品ロスを削減し、かつ、必要とされている方々にお届けして地域社会に貢献するために、フードドライブにも取り組んでいます。

(1) プラスチック製容器包装の削減

環境や社会に配慮した取り組みは、プラスチック問題への対応として、ボトルの改良やラベルの縮小またはラベルを廃止するなどの改善をすることで、容器のプラスチック使用量を削減した商品の取り扱いを進めてきました。



ラベルのないただの炭酸水▲

① コープ商品

- 2024年度のコープ商品によって削減されたプラスチックは、123万9,424点のご利用で665.6tとなりました。

② とやま生協PB商品「さくらみそ」

- 2025年からとやま生協プライベートブランド商品となることにあわせて、環境に配慮した印刷インキの使用と、プラスチック素材を5%削減する準備をすすめました。



とやま生協プライベートブランド商品「さくらみそ」▲

③ みなみ店

- 使用するトレーのうち約2割を、環境負荷の少ないリサイクルトレーに切り替えました。
- 青果を中心に、バラ売りやラップに巻くなどの簡易包装を行い、プラスチック製の容器・包装の削減に取組みました。
- 10月に、フードドライブの実施や廃油の回収、ノートレーやエコトレー化に取り組んでいることが評価され、「とやまエコ・ストア連絡協議会会長賞」を受賞しました。



▲「とやまエコ・ストア連絡協議会会長賞」を受賞

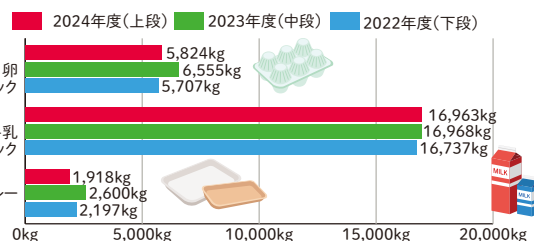
(2) 生協事業で排出される容器包装等の回収・リサイクル

持続可能な社会づくりをめざし、資源の有効活用のため、生協の事業から排出される容器包装等のリサイクル活動に取り組んでいます。

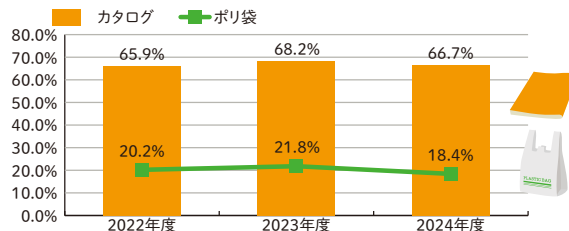
とやま生協で
リサイクル回収を
しているもの

宅配の配達時	お店の店頭
① 生協の商品カタログ	① 牛乳パック・紙パック
② 生協の卵パック	② 食品トレー（色付き可）
③ 牛乳パック・紙パック	③ ペットボトル
④ 食品トレー（白色のみ）	④ 廃食用油
⑤ 通い箱の内袋	
⑥ 注文書が入った袋	

リサイクル
回収品実績



カタログ・
ポリ袋回収率



(3) フードドライブ

① 常設コーナーの設置とイベントでの実施

- 東部センターとみなみ店ではフードドライブコーナーを常設し、1年を通して取り組んでいます。
- 北部センター併設の「サロンピピ」では6月、12月のイベント開催時に取り組みました。
- 10月をフードドライブ月間と位置づけて、各ブロックの「せいきようまつり」と全事業所で取り組みました。



▲みなみ店
フードドライブコーナー

② お寄せいただいた量と寄贈先

- 2024年度は年間で2,476点・617kgの食品をご提供いただきました。
- ご提供いただいた食品は、必要とされている社会福祉団体にお届けするだけでなく、NPO法人フードバンクとやまを経由し、能登半島地震と能登豪雨災害の被災地・奥能登地域への支援物資としてお届けしました。



▲奥能登地域への支援物資として、フードバンクとやま様にお繋ぎしました

とやま生協では、生産者の顔が見える産直商品や地産地消商品、適正な価格で取引された商品など、地域や社会、環境や人々に配慮した商品を提供することで、「責任ある調達」を進めています。また、自治体や地域の団体等と連携し、環境や生物多様性保全に向けた活動を行っています。

(1) 人権を尊重し環境に配慮した「責任ある調達」に向けた取り組み

とやま生協では、＜5つの産直基準＞の中に「持続可能な生産と、環境に配慮した事業の推進」を位置づけ、また、＜商品政策＞に沿って「人権尊重に配慮して生産された農林水産物や社会的に認知された外部基準（フェアトレード）を満たした商品の導入」を進めています。

- 地場産小松菜の生産者「ファニーファームベジタブル」を審査の上、新たな産直産地として認定しました。
- 7月と10月に「産直交流会」、9月には、生産者とその産地の商品を使って一緒に料理をする活動として「産直キッチン」を開催し、生産者との交流を深めました。



▲産直交流会▲



▲産直キッチン

(2) 環境保全活動の推進と自然共生社会の実現に向けた取り組み

① 海岸クリーン作戦

- 県内の生協や他の協同組合、地域の方たちと協力して、岩瀬浜（富山市）と六渡寺海岸（射水市）で開催し、両会場あわせて593人（うち、とやま生協からは310人）が参加する中、海岸清掃とマイクロプラスチック調査を行いました。



▲海岸クリーン作戦



◀マイクロプラスチック調査

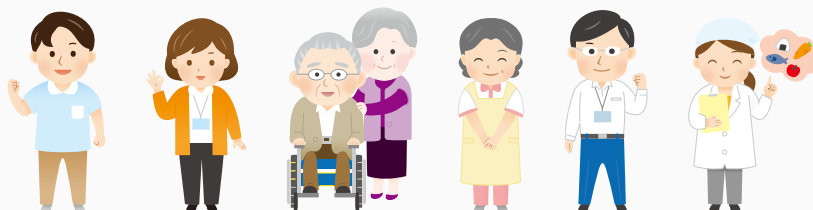
② 親子で生物多様性を学ぶ環境学習会

- 8月には、「里山の昆虫や植物を観察しよう」と題して、富山県自然博物館「ねいの里」で開催しました。
- いきものコレクションアプリ「バイオーム」を使つての里山の生きもの探しや、現地ナチュラリストのお話を聞きながら園内を散策し、植物や昆虫を観察するなど、豊かな生態系を育む大切さを親子で学びました。

生物多様性を学ぶ親子環境学習会▼



自治体をはじめ、企業や地域の団体と協力し、課題解決のための取り組みを進めています。



(1) 地域の課題に対応した取り組み



▲立山町と包括連携協定を締結(2024年3月)

① 包括連携協定

- 魚津市、富山市、高岡市、立山町の3市1町と結んでいます。

② 見守り協定

- 県内全15市町村と結んでいます。
- 富山県内全域をくまなく周る宅配事業や配食事業を行っている強みを活かして、地域の見守り活動に取り組んでいます。

- 2024年度は、対応した事案が年間で20件ありました。

③ オムツ宅配便

- 魚津市と子育て支援の一環として、2023年5月より新生児のいるご家庭への「オムツ宅配便」に取り組んでいます。
- 2024年度は160世帯にお届けしました。



「オムツ宅配便」でのお届け▲

④ 認知症カフェ

- 高岡市と高齢者福祉の一環として、小規模多機能型居宅介護施設「輝城東」で定期的を開催しています。

◀認知症カフェ



④ 移動店舗「クルくる」

- 射水市新湊地区にあるショッピングセンターの食品館が閉店したことで、買い物が不便となった周辺地域の組合員からの要望にお応えし、2024年4月から射水市新湊地区と高岡市牧野地区で巡回販売を始めました。

移動店舗「クルくる」▶



⑤ 「地域ささえあい講演会」の開催

- (一社)富山県若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会と協働して11月に開催し、100人強が参加(とやま生協からは35人参加)しました。

～「地域ささえあい講演会」の概要～

【対象】生きづらさを抱えた若者やその家族、支援者など

【目的】現代社会を生き抜くためのヒントや心構えを学ぶ

- 開催にあたっては、<CO・OP共済 地域ささえあい助成>を活用しました。



地域ささえあい講演会▲

(2) とやま生協のサステナビリティへの取り組み状況の公開



機関誌「リアン」▲

2024年7月号<SDGsアクション>

① 機関誌リアンでの掲載

- 機関誌リアンに、「とやま生協の取り組みとSDGsとのつながり」や「一人ひとりができる行動(Action)」についての記事を毎月掲載しました。

② ホームページでの公開

- とやま生協ホームページでは「SDGs特設サイト」を設けて、

とやま生協の
I. 富山県SDGs宣言
II. サステナビリティの取り組み
III. サステナビリティ・レポート

を組合員、県民の皆様に向けて公開しています。



▲SDGs特設サイト(とやま生協ホームページ内)

この二次元コードを読み取り、「SDGs特設サイト」にアクセスしてください。





平和で心豊かな地域社会を創るため、「ピースアクション」への参加や学習会、署名活動などを行いました。

また、助け合いの組織として、国際支援活動をはじめ、自然災害で困難な状況にある方々や地域への支援活動にも取り組みました。

(1) 平和活動や国際支援活動



▲「原爆の子の像」に、組合員から寄せられた「平和の折り鶴」を奉納

① 平和の取り組み

- 8月に日本生協連と広島県生協連が主催する「ピースアクションin広島」に組合員親子3組6名を代表派遣し、子どもたちが「原爆の子の像」に組合員から寄せられた「平和の折り鶴」を捧げました。

- 「日本政府に核兵器禁止条約の批准・署名を求める署名」や「被爆・戦後80年メッセージ」などにも取り組み、署名には3,001筆が集まりました。



▲日本ユニセフ協会からの感謝状

② 国際支援活動

- ユニセフ支援は、ガザ人道危機緊急募金やウクライナ緊急募金などに取り組み、2,566人から217万円が寄せられました。
- ご家庭に眠っている書損じ・未使用のハガキや切手、商品券などを集めて国際支援をする「書損じハガキetc.回収キャンペーン」(認定NPO法人ハンガー・フリー・ワールド主催)には、892件・143万円相当のご協力をいただきました。

② 「令和6年 能登半島地震及び奥能登豪雨災害支援募金」

- 9月に奥能登地域を中心に豪雨災害も発生したことを受け、豪雨災害発生直後から2025年3月まで取り組みました。
- 延べ7,400人から約1,100万円が寄せられました。



▲氷見市社会福祉協議会に災害支援金の贈呈(2025年2月)

③ 災害支援金の寄贈

- 2025年2月に、災害支援募金の中から100万円を、現地の災害ボランティア活動と被災者支援活動に役立ていただくために、氷見市社会福祉協議会に寄贈しました。
- 2025年3月に、災害支援募金の中から500万円を、日本生協連を通じて被災地を支援する団体等に寄贈しました。

④ 災害ボランティア活動

- 能登半島地震の発災直後から、被災地への救援物資のお届けやボランティアセンターの運営支援、炊き出し支援、被災されたCO・OP共済加入組合員へのお見舞い活動、石川県の生協「コープいしかわ」への業務支援などを行ってきました。
- 11月には初めてボランティアバスを運行し、12人が石川県輪島市内で土砂の掻き出しや土のうの運び出しなどの災害ボランティア活動を行いました。
- 12月より「能登半島地震復興支援ボランティア」の登録を開始し、2025年3月末現在で116人が登録されています。
- 2025年2月と3月にもボランティアバスを運行し、組合員と職員がともに富山県氷見市内で、被災住宅の片づけや残置物の搬出、家財の移動(引っ越し)作業などの活動に組み、延べ32人が参加しました。



▲石川県輪島市内での炊き出し支援(2024年12月)

(2) 能登半島地震をはじめとする災害支援活動

① 「令和6年 能登半島地震緊急募金」

- 能登半島地震発災後から5月にかけて取り組み、延べ12,455人から約2,200万円が寄せられました。



- このうち、1,000万円を富山県に、約1,200万円を石川県に義援金として寄贈しました。

▲富山県に能登半島地震義援金を贈呈(2024年3月)



▲石川県輪島市内での災害ボランティア活動(2024年11月)



▲氷見市内での災害ボランティア活動(2025年3月)

とやま生活協同組合の紹介

配送センター

- ① 北部センター
- ② 富山センター
- ③ 西部センター
- ④ 砺波センター
- ⑤ 東部センター

事務所

- ⑥ 本部
- ⑦ 堀川事務所

店舗

- ⑧ みなみ店

物流センター

- ⑨ 農産物流センター
- ⑩ 要冷物流センター

福祉事業所

- ⑪ デイサービスセンターまる～な
- ⑫ ヘルパーステーションまる～な
- ⑬ ゆとり～な
- ⑭ 輝ゆとり～な
- ⑮ 輝くるべ
- ⑯ 輝 城東
- ⑰ 輝かみいいの

私たちは力を合わせ、
誰も取り残さない、
平和で心豊かな地域社会を創ります。

とやま生協は、「私たちは力を合わせ、誰も取り残さない、平和で心豊かな地域社会を創ります」という理念のもと、事業規模の拡大と事業経営の効率化により、食の安全とくらしの安心をさらに前進させ、住み慣れた地域で安心してくらし続けられる地域社会づくりへの貢献をめざしています。



SDGs とは？

SDGs(Sustainable Development Goals)は、2015年9月の国連サミットで採択された「17のゴールと169のターゲット」からなる「持続可能な開発目標」です。

貧困や飢餓、暴力を撲滅し、地球環境を壊さずに経済を持続可能な形で発展させ、人権が守られている世界を実現することを目指しています。

「誰一人取り残さない」というSDGsが目指す姿は生協の理念と重なり、また協同組合(生協)はSDGsを実現するための重要なパートナーとして位置づけられています。

キーワードは「誰一人取り残さない」。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

